

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New28号 2008年2月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 「書かなくて、どうするの」 細見三英子	 (1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	 (2)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	 (13)
編集長の著者インタビュー 「疑問スッキリ! セクハラ相談の基本と実際」の著者 周藤由美子さんに聞く	 (14)
HOT・FILE	 (15)
ウィメンズブックスストア TOP5 (11・12・1月)	 (16)
Women's Books からの風 「ウィメンズ ブックス」のニュース・お知らせなどのページです	 (16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

書かなくて、どうするの

このほど新潮社から、『中国「女書」探訪』を出版しました。湖南省の奥地、多数派の漢族と少数民族のヤオ族が半々に暮らす小さな村に、唯一残っている女書を取材したルポルタージュです。漢字でもなく、刺しゅうの図案のようなものもある美しい女書およそ2千字は女性にしか読めない文字で、80年代後半に発見されました。

なぜ、この村にのみ残っているのか、どのように生み出されたのか。中央政府も答えを出していない難問ですが、おおよそわたしの推論はこうです。ヤオ族の女性たちに女書を教えることで自立する漢族の女性と、そのお返しに美しい刺しゅうの図案を編み出したヤオ族の女性との、共生（シスターフッド）の有様。このひそやかな自立と共生の関係を確かめ合う手段として、女書が作り出されたのではないか、というものです。

しかし、歴史や文化にも及ぶグローバル化の中で、女書は消滅の危機に陥ります。消えつつある女書を何とか残したいと、表紙カバー全体に女書をあしらってもらいました。

発売以来、いろいろな媒体で講評を載せましたが、今日はひとつ、その中で最もショックを受けた反響例を紹介しましょう。それはネット上で、「この著者の作品は現代中国のものではない云々」というものでした。現に存在する女書をレポートした作品へのいわば入り口での否定のようなもので、ほんとに読んでくれたのかしら、とわたしはショックを受けました。さらに追い討ちをかけたのは、担当する学生達にこの本の感想を書いてもらったところ、少なからぬ女子学生が「この著者の…」以下の表現をそっくりパクっていたこと。「この著者って、あ



新潮社 1365円

ジャーナリスト

細見 三英子



なたの目の前のわたしだけど…」と余程言ってやろうかと思いました。ああ、ネット社会もここまで来たかー。

膨大な情報が四六時中飛び交うネット社会では、奇想天外な作り話や一刀両断に斬る威勢のいい過激発言ほど、ピックアップされやすい。そして一度拾い上げられた情報は、皆知っているといわんばかりの「事実」として広がっていきます。それを知らないなどと言おうものなら、「KY（空気が読めない）」の一言ですまされます。そう思われるのもシヤクだから、知ったふりして流れに乗っていくようになってしまいます。

まさに悪貨が良貨を駆逐する情報激流。その中では、目的地（どこへ向かっていっているのか、何を知りたいのか）という概念すら忘れてしまう。いやはや情報社会とは、ますます一方的、強圧的なものになっていきます。

女書の村で、差し出した紙に震える手で女書を書いた陽燄宜（よう・かんぎ）。86歳の彼女は、「なぜ、書くのですか」という問いに、「書かなくてどうするの。千々万々の苦しみを書かなくて、どうするの」と私たちを叱りました。

女に文字はいらない、ひたすら働き、子を産むことを求められた時代にあって、異なる民族の女性たちが互いに知識と工夫を合わせて作り出した女書。己を表現したいという思いに衝き動かされて編み出された表現の体系。

翻って現在、活字からデジタルへ、さらにワンセグへ。人間の発想や感覚はいっそう瞬間的、刺激的、内向きになっているように思えます。そしてそんな現状に「ノー」と言うには、とてつもないエネルギーが要るのも事実です。

情報社会、とくにネット社会の入り口に立って、書くという作業の意味や作法をもう一度確認したいと痛感しています。

最新刊情報

フェミニズム・女性学……(2)
労働・仕事……(3)
家庭・家族・衣食住……(4)
法律・政治・政策……(5)
子育て・教育……(6)
こころ・癒し……(7)

女性史・歴史……(7)
セクハラ・暴力……(8)
高齢・福祉……(9)
文学・エッセイ・芸術……(10)
セクシュアリティ……(11)
からだ……(11)

平和・開発・エコロジー……(12)
絵本・子ども……(12)
自伝・評伝……(13)
資料・雑誌・メディア……(14)



〔フェミニズム・女性学〕

女の子のための愛と性の生命倫理



湯浅慎一、井上真理子、羽田登洋/著
太陽出版 2007年11月 1890円

女性産婦人科医の井上が第1部：愛と性の医学を、哲学者である湯浅が第2部：愛と性の哲学を担当。第3部は、井上・湯浅・羽田の対話編。妊娠・出産できる身体をもつ女性には特に、「生命倫理」の問題に直面することになる。身体、生命をめぐる倫理をじっくり考えてほしいというのが、本書の意図するところ。

ことばとジェンダーの未来図 ジェンダー・バッシングに立ち向かうために



遠藤織枝/著
明石書店 2007年11月 3940円

行政からの「ジェンダー」「ジェンダー・フリー」の用語禁止に対する、言語学研究からの回答である。実に多様な側面からの考察がなされている。「ジェンダー・フリー」の使用を止めよという主張も、そういう主張こそ、権力側の思惑にはまることだという主張も、権力による言論弾圧は許さないという点では一致している。

女性の人権とジェンダー 地球規模の視座に立つて

マージョリー・アゴシン/編著
堀内光子、神崎智子、望月康恵、力武由美、ベバリー・アン・山本/訳
明石書店 2007年12月 7350円



第1部「理論展望」第2部「女性と健康」第3部「女性、行動主義、社会変革」第4部「女性、文化、難民化」。世界各地での女性の人権状況、ジェンダーに基づく差別的状況を16人の世界的学者、活動家が執筆。21世紀幕開けにおける、「地球規模」での女性の人権状況が一望できる。

アメリカ占領期の民主化政策 ラジオ放送による日本女性再教育プログラム

岡原都/著 明石書店 2007年10月 5250円



日本占領軍による日本国民民主化プログラム、特に女性に向けたそれが、戦後の日本女性に大きな影響を与えたことは知られている。本書は、その中でもCIE(民間情報教育局)で実施された、放送メディアを用いた教育プログラムの研究。今まであまり注目されてこなかった分野に光をあてている。

スポーツする身体とジェンダー



谷口雅子/著 青弓社 2007年10月 1680円

男女の優劣関係や二項対立の論議に終始するのではない、自分たちの「身体感覚」をすくいとるジェンダー論の可能性を追及したいと著者。その際の題材として取り上げたのが、「スポーツする身体」。男女の明確な区別と男性の身体的優位性が明らかにする「スポーツ」を通して考えた、「ジェンダー」とは？

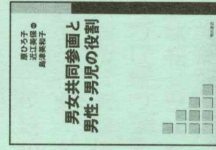
〈少女〉像の誕生 近代日本における「少女」規範の形成

渡部周子/著 新泉社 2007年12月 3675円



近代国家の産物としての「少女」に焦点をあて、「愛情」規範、「純潔」規範、「美的」規範の三点からジェンダーの固定化プロセスを考察している。近代国家におけるジェンダー役割の構築と固定のプロセスがよくわかる。巻末には昨年急逝した若桑みどり氏の解説も。

男女共同参画と男性・男児の役割



原ひろ子、近江美保、島津美和子/編著
明石書店 2007年12月 1680円

男女共同参画社会実現の為に男性性と男児が果たす役割は何か。政府、自治体、家庭、地域における取組みや、職場、健康、DV、社会制度等における実情と課題を述べている。日本女性監視機構(JAWW)における研究や活動がもたになっている。

ケアと社交 家族とジェンダーの社会学

天志保美/著 ハーベスト社 2007年10月 1890円



60年代以降の日本の家族を、アラン(英国、社会学者)等の家族論を手がかりにジェンダー分析。第1章：孤立する家族と専業主婦 第2章：ファミリー・マールな組織と家族 第3章：家族と第一次集団 第4章：ケアラーとしての主婦 第5章：家族中心化の志向性 第6章：家族と社交 第7章：妻たちと社交

国際女性 No.21



国際女性の地位協会/編
国際女性の地位協会/発行
尚学社/発売 2007年12月 3150円

特集は「国際女性の地位協会設立20周年企画」。その他には、第61回国連総会第三委員会報告、第51回国連婦人の地位委員会報告など。

女性学年報 第28号

日本女性学研究会女性学年報編集委員会/編
日本女性学研究会 2007年11月 1995円
今号の特集は「くりかえし、見つめなおす」。山本真弓、高橋すみれなど。

ネットワーカーたちのまちづくり 埼玉県草加発男女共同参画・パートナーシップづくりの新たな実践

(特)みんなのまの草の根ネットの会/編著
生活思想社 2007年11月 2415円
埼玉県草加市で進められている「みんなのまの草の根ネット」の12年間にわたる活動記録。誰にも住まいまいまちづくりをめざして、ネットワーク型活動を発案にくり広げている。

女性学年報



総合生活学 女性の視点からみた現代社会

大羽宏一/編 法律文化社
2007年10月 2625円
第I部：女性と社会の変化 第II部：よりよい生活を考える 第III部：将来の生き方を考える 法律、生活環境、情報化、衣食住、子育て、職業など、現代社会にある全般を扱っている。女性学のテキストにどうぞ。

総合生活学



「品格」ブームって何？ 女も男も No.110

労働教育センター編集部/編
労働教育センター 2007年12月 1860円
Part1:「女性の品格」が読まれるワケ/Part2:働きづらさ・生きづらさの根をさぐる/Part3:「品格」を晴え/Part4:適応よりも変革。「女性の品格」を批判的に検証している。

「品格」ブームって何？



光できらめく理系女性たち 理想のワークライフバランスを目指して



小館香椎子/監修 オプトロニクス社
2007年8月 1890円
理系の女性研究者を育て、社会で活躍してもらうために、文部科学省では「女性研究者支援モデル育成」事業を実施している。本書は、私立女子大唯一の理学部がある日本女子大学理学部における「支援モデル」の報告。同性のロールモデルをたくさん得て、後輩たちが育っている。

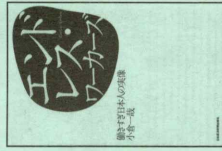
福祉労働とキャリア形成 専門性は高まったか

染谷椒子/編著 ミネルヴァ書房 2007年10月 2940円
少子高齢化した現状において、全ての人に安心した老後を、という目的でつくられた介護保険は、サービスを担う福祉介護職員にその成否を委ねている。福祉を担う人々の専門性の確保、人的資源の供給はどのようなものか。福祉サービスの市場化の現状はどうか。



インドレス・ワーカース 働きすぎ日本人の実像

小倉一哉/著 日本経済新聞出版社
2007年11月 2100円



労働者に対するアンケートの分析等を通して、日本の労働時間の実態を探る。長時間労働問題の責任は、どこか1つの当事者にあるのではないから、政府、行政、企業経営者、管理職、組合、働く人自身それぞれが考えなくてはいけない、というのが本書の主張。

キャリアデザインへの挑戦 58人のキャリアデザイン論

日本キャリアデザイン学会/監修 菊地達昭/編著
経営書院 2007年9月 1890円
第1章：キャリアについて考える 第2章：キャリア教育とキャリア形成支援 第3章：企業におけるキャリア開発 第4章：女性とキャリア



新・心をケアする仕事が見たい 現場の本音がわかる、やりたい仕事が見えてくる
斉藤弘子/編著 彩流社 2007年11月 1575円
Part1：心をケアする仕事は本音を聞いて選びたい
Part2：心をケアする仕事、資格の見取り図。
このたび改訂版が出ました。

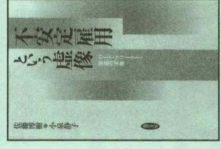
出生率の回復とワークライフバランス 少子化社会の子育て支援策



丸尾直美、川野辺裕幸、的場康子/編
中央法規 2007年12月 1890円
下がりつつける日本の出生率。子どもをもつ事が難しい社会をどう変えていくか？海外の成功事例と照らしあわせながら、日本の未来の福祉政策を探る。

不安定雇用という虚像 パート・フリーター・派遣の実像

佐藤博樹、小泉静子/著 勁草書房 2007年11月 2100円
増大する非正社員の中から主婦パート、フリーター、派遣社員を取り上げ、それぞれの実像を描き出している。その上で、非正社員の人材活用上の課題を呈示。否定的な側面ばかりでなく、「働き手からみた多様な働き方」という面も持つ非正社員の特徴を活かした処遇や活用が必要だというのが本書の主張。



生活のデザイン つくる人 女性編

スペースデザインカレッジ/編
学芸出版社 2007年12月 1890円



「これから一生仕事を続けていきたいと願う女性たちを勇気づけるような本をつくりたい」という思いからできた本。建築や都市、生活環境の設計に関わる8人の女性たちを紹介。それぞれの個人史や1日のスケジュールなども掲載。写真も多く読みやすい。

Q&A 「パート労働法」早わかり事典

布施直春/著 セルバ出版 2007年10月 2625円
改正パート労働法に対応している。Q&A方式でパート労働にかかわる実務的知識を解説。

ものづくりを仕事にしました。 女性クリエーター15人ができるまで

田川ミユ/編著 雷鳥社 2007年10月 1680円
布小物作家、陶芸家、ステンドグラス作家など、ものをつくる仕事をしている15人の紹介。

パートタイム労働法Q&A

労働調査会出版局/編 労働調査会 2007年10月 2625円

2008年4月施行の改正パートタイム労働法に対応している。85のQ & Aで、実務上必要な知識を平易に説明。

コミュニケーション・レストラン

世古一穂/著 日本評論社 2007年10月 1785円
「食」を中心としたコミュニケーション再生の場が「コミュニティ・レストラン」(コミュニティ)。その可能性をNPO法づくりにもかかわった著者が紹介。



女性社員活躍支援事例集 ダイバーシティを推進する11社の取り組み
日本経団連出版/編 日本経団連出版 2007年11月 3150円
東京電力、ダイキン工業、資生堂など、社内での男女共同参画、ワークライフバランスの推進に定評のある11の会社の取り組みを紹介。

リフォームで活躍する女性たち

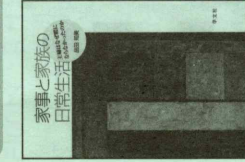
西田恭子/著 第一プロダクション 2007年10月 1575円
著者は、三井のリフォーム住生活研究所所長。リフォーム設計の草分け的存在。リフォームプランナーという仕事を紹介し、魅力を語っている。

働く女性が子どもを産むとき読む本

北條麻木/著
株ロコモーションパブリッシング 2007年10月 1260円
妊娠→休職→出産→復職までのススケジュール・手続をアドバイス。

〔家庭・家族・衣食住〕

家事と家族の日常生活 主婦はなぜ暇にならなかったのか



品田知美/著 学文社 2007年11月 2100円
「家事」という切り口から、日本の家族の風景を描き出している。「家事のない社会」という「夢」はかなえられず、どうやって家事を生活の中に位置づけていけばいいののかの答えもだせないまま少子化は進み、家族も移ろっている。

結婚差別 データで読む現実と課題

奥田均/著 解放出版社
2007年11月 1260円



結婚をめぐる状況は大きく変化している。その中でなお、差別の現実が残されているのだらうか。本書では、同和地区、同和地区外で実施された各種行政調査をもとに、いまだ残る結婚差別の実態をあぶりだす。最終章には、問題解決に向けたヒントも。

純潔の近代 近代家族と親密性の比較社会学

デビッド・ノッター/著
慶應義塾大学出版会 2007年11月 2625円
比較歴史社会学の立場から、日米を比較し、日本近代の家族制度、結婚制度、ロマンティック・ラブ・イデオロギー等を分析。

熟年離婚している場合か！

井戸美枝/著 角川書店 2007年10月 756円
著者は、フアイナンシャル・プランナー。厚生年金分割はできたが、「離婚のデメリット」はまだまだ女性にとって大きいという。しかし、それは妻だけのデメリットではないとも。熟年夫婦は、これからの人生を乗り切るための有効なユニットであることを前提に、どうしたら離婚が回避できるのかを、本書は説いている。

ガールズブファイル 27人のはたらく女の子たちの報告書

柴崎友香/著 マガジンハウス 2007年11月 1365円
「ハナコ・ウエスト」という雑誌に連載されていた、働く女の子たちのインタビューが1冊になった。大企業の社員、芸術系の仕事、バイヤーなどなど。先入観を排した「生の声」の集大成は、かなり面白い。

心理学をまなぶ人のためのキャリアデザイン

宮城まり子/著 東京図書 2007年11月 1680円
大学で心理学を学びたい、カウンセラーになりたい、という人に向けて「心理学を活かしたキャリア」の「デザイン」を提示する。

変わるワークルール 労働関係法の改正点 速報版

労働調査会出版局/編 労働調査会 2007年10月 1470円
平成19年の通常国会で成立した労働関係法の改正点をポイント解説。労働基準法、パート労働法、労働契約法案などをわかりやすく解説。

女性の職業のすべて2009年版

女性の職業研究会/編 啓明書房 2007年12月 1470円



子どもが忌避される時代 なぜ子どもは生まれにくくなったのか



本田和子/著 新曜社 2007年10月 2940円
「子どもに優しい国」とかつて言われた日本。どうして「子ども嫌いの国」になったのか。「成人のための条件の変化」「都市空間の変貌」「子どもへの恐れを増幅するマスメディア」など。社会の近代化に伴う変動と、人々の心性の変化に伴う状況。

離婚家庭の子どもの援助



スザンネ・シュトロバツハ/著 柏木恭典/訳 同文書院 2007年11月 3150円

親の「離婚」は子どもにとって解決しがたい困難な事態といえる。その子どもたちのため、親や教育関係者、支援者に何ができるか、手がかりになるのが本書。問題の背景の分析と、不安、怒りといった様々な感情に合わせたレッスンが掲載されている。巻末にはワークシート、索引付。

モンスターマザー

石川結貴/著 光文社 2007年11月 1365円
最近の母親たちの異変を「母子被害」という著者。取材を通してうかびあがった「モンスター」ぶりに驚く。かつての「コギャル」世代が、純々モンスター入りしているという。

家族(改訂版) ライフコースとジェンダーで読む

岩上真珠/著 有斐閣 2007年10月 1890円
ジェンダー視点からみた家族社会学の定本のひとつが改訂された。今の時代、個人と家族の関係は、変化しつづけており、常に模索され続ける必要があるようだ。統計データベースも新しくなり、リアル感が増している。



変わる家族 変わる食卓 真実に破壊されるマーケティング常識

岩村暢子/著 勤草書房 2003年4月 1890円
1960年以降に生まれた子持ちの主婦を対象に毎年実施された「食DRIVE」調査。ショッキングな「食卓事情」がみえてくる。この「家庭の食卓の激変」の理由は1つではない。親子のあり方、教育観、夫婦の関係・・・すべてが絡まっているというのが、この本でいっていること。「開食」だという。

納得して別れる離婚の方法

山根幸文/監修 金森合同法律事務所/著
かんき出版 2007年11月 1575円
離婚に際しての感情面のケアに重点をおいている。離婚するかしないか、納得して決めるために。

中年期における夫婦関係の研究 個人化・個別化・統合の視点から

長津美代子/著
日本評論社 2007年11月 5880円
「家族の個人化と多様化」は中年期の夫婦関係にどのように表れているか。中年期夫婦はそうした「危機」をどのように乗り越え、再統合しようとしているか、あるいはしているかを考察している。

女性のための離婚がわかる法律レッスン

石原豊昭/著 自由国民社 2007年11月 1680円
ストーリー形式ですすめられる離婚のながれと、それに伴う問題についてQ&A方式でやさしく解説

熟年離婚の相談室

岡野あつこ/著 C&R研究所 2007年10月 1470円
「2007年問題」ともいわれた熟年離婚であるが、「いざ離婚」となったら、難問山積み！離婚カウンセラーの肩書きを持つ著者が相談のります。

バツイチ男の心のうち

平井美帆/著
イーストプレス 2007年12月 1365円
20人のバツイチ男性に取材。離婚した男性たちの気持ちにせまっている。「結婚」に対するビジョンに、女性と男性では大きな違いがあるようだと言著者。

子どもの福祉と共同親権 別居・離婚に伴う親権・監護法制の比較研究

(財)日弁連法務研究財団
離婚後の子どもの親権及び監護に関する比較法務研究会/編
日本加除出版 2007年11月 3150円
離婚をめぐる争いで多いのが、親権の問題。父母同士の深刻な争いが、子どもにとってよい結果をもたらさないことは確かだろう。本書では学者と弁護士が協力して、「共同親権」の問題にせまっている。今後、家族法改正も含め、考えなくてはならない問題である。

「家族」はどこへいく

沢山美果子、岩上真珠、立山徳子、赤川学、岩本通弥/著
青弓社 2007年12月 1680円
本書は「家族」の危機を警告しているのではない。家族を論ずることをとおして「社会」を照射しようとしている。江戸期～戦後にかけての歴史事象を読み解き、家族を報道するメディアを民俗学的アプローチで分析し、現代社会のこれからの探る。

家族で往復書簡のすすめ 新しい父親像を発見するために

田村毅、田村鐘次郎/著 彩流社 2007年12月 1575円
著者の二人は父、息子で80代と40代。二人とも心理学者。「家族療法」の実践者として、二人は往復書簡を始める。この本は十ヶ月程の間に7往復した書簡がもとになっている。心理学者同士のやりとりながら、「書く」ことを通しての家族療法の姿が呈示されていて、興味深い。

<専門的主婦>の主体形成

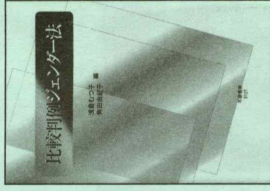
小谷良子/著
ナカニシヤ出版 2007年12月 5040円
主婦をめぐる議論はさまざまながあるが、総括的主婦論がなされないできたと著者。生活者としての専門的主婦を調査、分析することにより、その主體的視座の確立を目指している。巻末には索引、引用文献等あり。

合コンの社会学

北村文、阿部真大/著
光文社 2007年12月 735円
“合コン”とはつくりだされた“出会いの場”である。その装置としての合コンを、社会階層、ジェンダーなどの視点から分析し、現代の恋愛、結婚観を探っていく。

〔法律・政治・政策〕**比較判例ジェンダー法**

浅倉むつ子、角田紀子/編 不磨書房/発行
信山社/発売 2007年11月 3360円
DV、労働、自己決定(妊娠中絶など)、差別の是正、被害者救済(ボジティブ・アクションなど)にわけて、各国の判例を比較。難しい作業であることを認めながらも、日本の判例のジェンダーバイアスを考察し、ジェンダーセンシティブな法学的な作り上げようとしている。

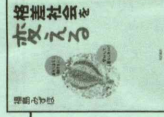
**これでもいいのか少子化対策 政策過程からみる今後の課題**

増田雅暢/著 ミネルヴァ書房 2008年2月 2100円
著者は、現在は大学に籍を置くが、内閣府参事官時代に平成16年度から18年度の3年間「少子化社会白書」を手がけた人。本書には政策決定過程の中枢からみる日本の少子化対策の評価、政策決定過程の実際、課題等が書かれている。合計特殊出生率を西欧平均の1.5にまでする為には、「少子化対策から家族政策へ」という視点が大切という。

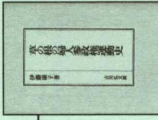
**格差社会を変える**

福島みずほ/著 明石書店 2007年12月 1260円

今の「格差」は個人の努力で解決できる段階ではない、と著者。社会から格差をなくすために、どうしたらいいかを呈示している。嶋桃代、待島康博との対談も。

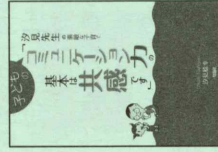
**草の根の婦人参政権運動史**

伊藤康子/著
吉川弘文館 2008年1月 9450円



【子育て・教育】

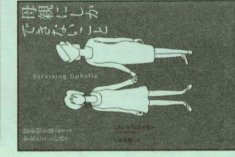
子どものコミュニケーション力の基本は共感です 汐見先生の素敵な子育て



汐見稔幸/著
旬報社 2007年10月 1260円

他人の苦しみやよころこびへの共感、共苦がコミュニケーション能力の基本。そして、この能力は、生きていくのに本当に大切な能力。パパやママが、子どもの共感・共苦の力を育むことが必要と。

母親にしかできないこと 思春期を暴走する少女たちとの日々



シェリル・デラセガ/著 戸蔭奈緒子/訳
イースト・プレス 2007年12月 1785円

リストカット、うつ、ひきこもり、いじめ…。思春期の嵐を生きている少女たちに向けて、母親は何ができるのか。ここに出てくるのはアメリカの事例なので違和感をもつ部分があるかもしれないけれど、確かにあるのは、共通した「母娘関係」の苦悩と喜び。

ここ 食卓から始まる生教育



内田美智子、佐藤剛史/著
西日本新聞社 2007年10月 1500円

助産師と食・農業・環境に関するNPOを主宰する研究者のコラボレートで、「性」と「生」と「食」について子どもたちに伝えたいことが書かれている。著者二人の魅力がまった本だと思う。

乳幼児と親のメンタルヘルス 乳幼児精神医学からの子育て支援を考える



本間博彰/著
明石書店 2007年12月 2520円

幼い子どもたちの抱える現実とは、10年後、20年後の社会が直面する問題をおぼろげながら指し示しているという。ならば、この現実をしっかりと見すえて、この時代の乳幼児たちのメンタルヘルスに取り組んでいくと、著者。

絵本と子育てのいい関係

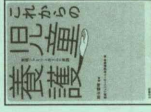
林田鈴枝/著 解放出版社 2007年10月 1470円

著者は、「人権を考え合う絵本の会」の主宰者。絵本を通じた子育て運動を提唱している。最後には、お薦めの絵本リストも。

これからの児童養護 里親ファミリーホームの実践

柏女霊峰/監修
里親ファミリーホーム全国連絡会/編
生活書院 2007年8月 2100円

「里親ファミリーホーム」とは、4～6人の子どもを受託する里親制度のこと。その実践や制度化に向けた提言、運営者の声などが掲載されている。



Q&A子どものいじめ対策マニュアル 解決への法律相談

三坂彰彦、田中早苗/編 佐藤香代、角南和子、浦川朋子/著
明石書店 2007年11月 1890円

いじめが起こったとき、どうしたらいい？現場に詳しい弁護士が、質問に答えつつ、実践的にガイドします。

子どもの人権をまもる知識とQ&A

山田由紀子/著 法学書院 2007年10月 2100円

改正少年法に対応した改訂版。いじめや児童虐待をみつけたらどうする？など、Q&A方式で弁護士が解説。

LD・ADHD・高機能自閉症のある子の友だちづくり ソーシャルスキルを育む教育・生活サポートガイド

リチャード・ラヴォイ/著 竹田契一/監修 門脇陽子/訳
明石書店 2007年11月 2730円

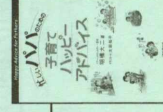
米国コロラド州でLD指導教育に実績をもつリチャード・ラヴォイ氏の著作の翻訳本。対人関係の築き方、ストレス対処法、ソーシャルスキル向上の為の評価法など、様々な実践的プログラムが呈示されている。



忙しいパパのための子育てハッピーアドバイス

明橋大二/著 太田知子/イラスト
一万年堂出版 2007年11月 980円

これからパパになるうとすると、人に向けて、ハッピーになるためのアドバイス。



なんで子どもを殺すの？ 名越康文の処方箋

猪熊弘子/著 講談社 2007年12月 1260円

子育てしている親のほとんどが、「子どもがうとましい」と思う瞬間があるはず。では、そうした親と、「子どもを殺してしまう」親との違いはどこにあるのだろうか。決して他人事とは思えない「子殺しの悪夢」にからめとられないためには、どうしたらいい？

AD/HDの子育て・医療・教育 親と医師、教師が語る 改訂版

楠本伸枝、岩坂英巳、西田清十
えじそんくらが奈良「ポップコーン」/編著
クリエイツかもがわ 2007年11月 2310円

幼児期から学童期、大人になるまでのライフステージを通して、AD/HDを多角的に理解できるようになるための本。著者は奈良県を拠点にAD/HD理解のために活動しているグループ。本書は6刷まで重ね、このたび改訂版が出版された。



子どもと親と性と生

安達倭雅子/著 東京シュレー出版 2007年11月 1575円

「性教育はニガテ」「人間は男と女の二種類しかない」「性はやっぱりイヤラシイ」と思っている人々に向けて、「やっぱり性教育は大切」と語りかける著者。思春期になるまでに子どもと話しておきたい「性」の話が、わかりやすく展開されている。



何が育児を支えるのか 中庸なネットワークの強さ

松田茂樹/著 勁草書房 2008年1月 2940円

毎年のように低下する出生率。子育て支援政策もいろいろとられているが、そもそも育児を支える基本的なものは、何なのか。著者は、「中庸なネットワーク」の重要性を説く。「中庸なネットワーク」とは、孤立でもなく、「皆で支える」でもないネットワーク。その内容は本書をどうぞ。

人間関係のいい子に育てる本

金盛浦子/著 (株)カンゼン 2007年12月 1417円

子どもたちにとっての(多分、大人たちにもって)ストレス源No.1は人間関係。本書では、子どもたちが友人と上手に関係をつくっていく方法を提案している。

【こころ・癒し】

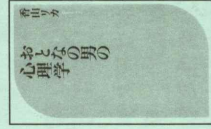
Q&Aモラル・ハラスメント 弁護士とカウンセラーが答える見えないDVとの決別



橋本智子、谷本恵美、矢田りつ子他/著
明石書店 2007年12月 2100円

「見えないDV」とされるモラル・ハラスメント。DV防止法に規定はあるものの、まだ、充分にその実態が知られているわけでもない。本書を読んだ「モラハラ」の一般的理解と対処法を学ぼう。

おとなの男の心理学



香山リカ/著 KKベストセラーズ
2007年12月 720円

定年後の人生が長くなるにつれ、従来の「老年期」に「中年期の危機」がずれ込んできたという。男性たちが、基本的には変化に弱い心性の持ち主であることもわかったという。

追いたてられる女たち

ブレント・W・ボスト/著 西川嘉伸/監修 宮本朋子/訳
イーストプレス 2007年12月 1500円



「追いたてられる女たち」とは「忙しく、かつ生産的な人々」のこと。イライラしたり、いつも疲れていたり…なのだが、これは「良くあることだから仕方ない」のではない。婦人科医である著者が示す「7つの行動」を試してみよう。

カウンセリングで何ができるか

信田さよ子/著 大月書店 2007年12月 1575円



9.11以降、「このころの時代」「私探しの時代」を支えていた磁場が微妙に変化した」と著者。司法、宗教、脳科学といった領域に拡散しつつある「このころの問題」に対し、カウンセリングは何ができるのか。著者の主宰する、カウンセリング・デセンドラーでの経験をふまえて考察している。

家族臨床心理学の視点 家族と結婚についての臨床心理学

井村たかね/著 北樹出版 2007年10月 2520円
家族崩壊の危機がいわれに久しいが、どうしたらいい？心理臨床の経験の長い著者が、臨床心理学を学ぶ若い人々に向けて、総合的に語っている。

うつ病だっていいじゃない？

原典子/著 新風社 2007年12月 945円
著者は40代の保健師。家庭でも仕事場でも、働きざかり。そんな著者がうつになった。そんな体験を本書で書いたのが本書。「うつ病になって初めてわかったこと」があるという。



疲れた心が少しラクになる本

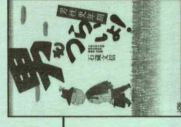
あなたの気持ちを軽くする30のヒント

富田富士也/著 学陽書房 2007年10月 1575円
なぜ、人間関係がうまくいかないの？なぜ、自分の気持ちをうまく表現できないの？というような「心の疲れ」をラクにするためのヒント集。



男もつらいよ！ 男性更年期

石蔵文信/著 ソシム 2007年12月 1365円
52歳±10歳が「男性更年期年齢」だとか。ポチポチ治していきこうと著者。



【女性史・歴史】

ガヴァネス ヴィクトリア時代のく余った女たち

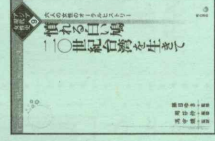
川本静子/著 みすず書房 2007年11月 3625円



19世紀イギリス、良妻賢母像が広く浸透し、結婚しない女性には「余った女」にしかなりえなかった。しかし、1840年代から生じた男女数の不均衡により、「余った女」は社会問題となり、彼女たちは女家庭教師として活路を開いていく。本書は、その実像を、歴史と文学に現れた女性像をもとに探っている。

憤れる白い鳩 二〇世紀台湾を生きて 六人の女性のオーラルヒストリー

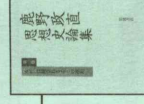
藤目ゆき/監修 周芬伶/編 馮守娥/監訳
明石書店 2008年1月 3150円



「アジア現代女性史」シリーズの9冊目は、20世紀に台湾に生きた(今も生きている)女性たちのオーラルヒストリー(聞き書き)。芸術家、原住民族、労働者、知識人等 異なる背景をもつ6人の波乱に満ちた人生に、私たちは、日本植民地支配下、戒厳令下、それ以降の女性たちの苦悩と強さをみる。「ジェンダー」とか「差別」とかの単な切り口では解けない女性たちの生。

女性 負荷されることの違和 鹿野政直思想史論集2

鹿野政直/著 岩波書店 2007年12月 5040円
戦前における「家」の思想や戦後のウーマン・リブを扱った論文が集められている。



イギリス女性運動史

レイ・ストレイチャー/著 出淵敬子、栗栖美知子/訳
みすず書房 2008年1月 9975円



女子高等教育における学歴

日本女子大学学寮100年研究会/編
ドモス出版 2007年11月 3150円



女たちのビルマ 軍市政権下を生きる女たちの声

藤目ゆき/監修 タナッカーの会/編
富田あかり/訳 明石書店 2007年12月 4935円
「アジア現代女性史」シリーズの4冊目。軍市政権の抑圧の下で果敢に行動するビルマ女性たちの姿、状況、現地から報告されている。ビルマの惨劇は、特に女性たちの深いところからの苦悩は、マスコミにはほとんど取り上げられていない。

アイヌ文化への招待 女性と口承文芸

三弥井書店 2007年11月 3940円
アイヌ口承文芸のすぐれた入門書である。アイヌ女性の一生、家族、文化についても書かれている。



〔セクハラ・暴力〕

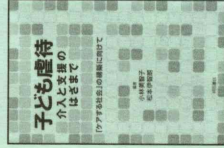
デートDV ってなに? Q&A 理解・支援・解決のために



日本DV防止・情報センター/編
解放出版社 2007年12月 1365円

配偶者以外の関係でおこる「デートDV」について、若い世代のそれを中心に解説。解決策、支援策を提示。

子ども虐待 介入と支援のはざまで 「ケアする社会」の構築に向けて



小林美智子、松本伊智朗/著
明石書店 2007年12月 2100円

「公権力の家族への介入」と「家族、子どもへの支援」という2つの契機のはざまで行われる子ども虐待に対する取り組みには、様々な困難がつきまといっている。その両者を常に意識し、進めていかなくてはならない。「ケアする社会」は、どう構築されるのか。

性的虐待を受けた少年たち ポイズ・クリニクの治療記録

アンデシ・ニューマン、ベリエ・スヴェンソン/著 太田美幸/訳
新評論 2008年1月 2625円



スウェーデンにある、性的虐待の被害にあった少年のための治療機関「ポイズ・クリニク」の経験をまとめたもの。男性の性被害は少数の例外として看過されがちであるが、ダメージを受けることに關して女性と変わらず、また、男らしさをめぐる社会規範がゆえに、女性とは違う問題も抱えるという。ここに示されたスウェーデンでの取り組みは、大変興味深い。

責任と癒し 修復的正義の実践ガイド



ハワード・ゼア/著 森田ゆり/訳
築地書館 2008年1月 1260円

サブタイトルにある「修復的正義」とは「不正義に対しての、非暴力的な平和手段による解決への取り組み」のこと。犯罪が起こった時、被害者と加害者、地域社会は、どのように対応したらいいのだろうか。復讐＝応報のもとにある司法に対し、私たちはどうしたらいいのだろうか。各地での実践事例をちりばめつつ、解説している。

職員からの相談実務の手引き 第2次改訂版 職員相談員、セクハラ相談員必携

(財)日本人事行政研究所/編
(財)日本人事行政研究所/発行 2007年9月 1785円
国や地方公共団体で苦情相談にあたる人のための手引き書。

虐待の家 義母は十五歳を餓死寸前まで追いつめた

中央公論新社 2007年11月 1890円
2003年11月、岸和田市で体重24キロの中学3年生の少年が意識不明状態で救出された。なぜそんなところまで陥ったのか。本書は加害者の母親と交流し、その心情をきいたルポルタージュ。



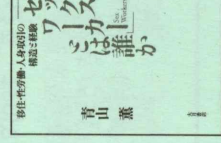
インドの女性たちの肖像 経済大国の中の伝統社会

サイダー・S・ハミード/著 鳥居千代香/訳
つげ書房新社 2007年10月 2625円



インドの性暴力に関する8つの事件をストーリー形式で報告。経済大国になったインドだが、状況は悪くなっているという。著者は、「インドの女性のための委員会」委員。政府の無理解から委員会が機能しなかったのを嘆き、本書を出版した。生々しい性暴力の記録である。

「セックスワーカー」とは誰か 移住・性労働・人身取引の構造と経験



青山薫/著
大月書店 2007年12月 3940円

タイにおける丁寧なフィールドワークがもたれている。「売買春」を「奴隷制か労働か」の二分法でみるのではなく、女性たちの個人史を聞き、そこに浮かび上がる社会構造を通して理解しようとする。

デートDV

遠藤智子、NPO法人全国女性シェルターネットワーク協力/編
KKベストセラーズ 2007年11月 1260円



結婚・事実婚未満のカップルの暴力(いわゆるデートDV)は、DV防止法の適用外である。多数存在するのに、効果的な予防も対処もなされていないという。愛か暴力か、しっかり見極めよう。

セクシュアル・ハラスメント 性と権力の迷宮

ヘレン・ガーナー/著 石橋百代/訳
明石書店 2008年1月 2940円



オーストラリアの名門カレッジで、二人の女子学生が学寮長にセクハラされた、と警察署にかけこんだ。本書は、その事件のルポルタージュ。興味深いのは、セクハラを権力の行使とみる若い世代のフェミニストたちと、そう簡単にはとけないと主張する「穏健な」フェミニストとの対決。かの地で大激論になったようだ。サブタイトルにあるように「性と権力」の関係は、複雑で、迷い込むと本当に大変。

女性の健康とドメスティック・バイオレンス WHO 国際調査/日本調査結果報告書

吉浜美恵子、釜野おり/編著
秋山弘子、戒能民江、林文、ゆのまえ知子/著
新水社 2007年11月 1890円



2000年から2001年にかけてWHO（世界保健機構）が各国で実施したDVと女性の健康に関する国際調査の日本調査報告書。

配偶者暴力対策ガイド

矢野輝雄/著 緑風出版 2007年12月 1890円
DV法の仕組みから、DVにあった時の対処法、離婚手続に至るまで、DVから身を守るためのノウハウが書かれている。付録には相談センターリストなども。

学校現場で役立つ子ども虐待対応の手引き 子どもと親への対応から専門機関との連携まで

玉井邦夫/著 明石書店 2007年12月 2520円
子ども虐待が急増する中で、学校現場や教育行政はどうすべきか、という役割を担うべきかを考察。第2部では、虐待を防止するための具体的な方法を提起。巻末には、資料&ブックガイドも

日本の子ども虐待 戦後日本の「子どもの危機的状況」に関する心理社会的分析

子どもの虹情報研修センター/企画
保坂亨/編著 福村出版 2007年12月 6090円
子ども虐待を「子どもの危機的状況」ととらえ、1970年代まで、80年代、90年代と時代を追って、その状況を総合的に考察している。厚生労働省等の経済的支援で設立された「子どもの虹情報研修センター」の研究、実践成果が一冊になった。



ここまでわかった！日本軍「慰安婦」制度

日本の戦争責任資料センター、
アケティブミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」/編
かもがわ出版 2007年12月 1050円
日本の一部の政治家たちによる「慰安婦」についての日本軍の強制や被害者の証言を否定する発言に対し、2007年8月「ここまでわかった！日本軍「慰安婦」制度」が開催された。本書はそのシンポジウムの記録。

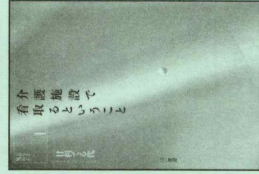
「まさか」の犯罪・事故からわが子を守る7つのルール 脅えさせない安全教育のすすめ イラスト版

横矢真理/著 講談社 2007年10月 1000円
子どもの安全教育についての「基本」の本。情報や道具の利用方法を、チェックシートやイラストでわかりやすく解説している。まず家族のコミュニケーションと生活の点検から「安全・安心」をはじめよう。



介護施設で看取るといふこと

甘利てる代/著 三一書房 2007年12月 1995円



現在、施設で暮らしているお年寄りは、どういう死を迎えるのだろうか。入居者の希望に応え、最後まで看取る介護施設があるという。ノンフィクションライターの著者は、いくつもの、そうした施設の取材をとおし、施設で死ぬこと、看取ることの意味を考えている。逝く人、看取る人、家族の間の関係性がうかがいあがってきて、時にせつない。

悪女の老後論

堀江珠喜/著 平凡社 2007年10月 735円
母親の老人ホーム入居に奔走する著者。本書では、その戯話話を中心に、自身の老後を考察する。母も娘も痛快。「悪女」ならでは。



定年前定年後 新たな挑戦「仕事・家庭・社会」

ニッセイ基礎研究所/著
朝日新聞社 2007年10月 1765円
742人の男性を8年間追跡調査。男性の「定年前・定年後」の生き方についてのヒントを提供。



知っていますか？ 子どもの虐待一問一答

田上時子/編著
解放出版社 2007年12月 1260円
21のQ&Aとコラムで、子どもの虐待についての基本をまとめている。巻末には、参考文献、問合せ機関等の資料も。



セックストラフィッキング 世界の人身売買の現状とは NIジャパンNo92 2007年9月号

ニュー・インターナショナルリスト・ジャパン/編 ニュー・インターナショナルリスト・ジャパン 2007年9月 600円
創刊より世界の貧困と不平等の問題を報道してきた月刊誌の日本語版。今回の特集は「世界の人身売買の現状とは。」特別レポート：日本の人身売買の経緯、そして現状と課題。



ママ、あたしを好きになって 虐待を越えて

白河紫枝/著 さんこう社 2007年11月 1050円
虐待を受けて育った著者が、それをのりこえ、母親になっていく過程をつづった。「虐待は連鎖する」ことは確かであるが、それをストップさせる力も人によってはある。「虐待されたのは自分が悪いからではない」と知り、「許したわけではないが、チャラにする」と思えるようになるために、本書は書かれた。



「虐待大国」アメリカの苦闘 児童虐待防止への取組みと家族福祉政策

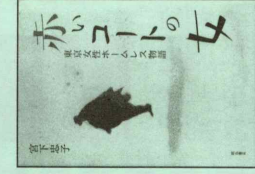
原田綾子/著 ミネルヴァ書房 2008年1月 3570円
米国は虐待対応の仕組が発達した「虐待対応先進国」であると同時に、年間90万件という虐待事件を抱える「虐待大国」でもある。本書は米国の虐待対応の調査、分析のみならず、その社会的背景も視野に入れ考察している。「児童虐待ケースへの対応」「予防への取り組み」「制度改革に向けて」「終アメリカの経験から学ぶもの」



〔高齢・福祉〕

赤いコートの子 東京女性ホームレス物語

宮下忠子/著 明石書店 2008年1月 1680円



著者は都の福祉センターで医療相談員として山谷などの現場に関わり、退職後も、路上生活者へのボランティア活動を続けている。その活動の一端を、2人の女性の物語としてまとめた本が出版された。特殊な落伍者と思われるわがちがホームレスが、身近な隣人であることに気づかされる。そして女性であるということは、ホームレス社会にあってでも困難であることがひしひしと感じられる。

「ひとりの老後」はこわくない

松原惇子/著 海竜社 2007年12月 1470円
シングル女性をサポートし続けているNPO法人SSSネットワーク代表の著者が、「ひとりの老後」を「バラ色の老後」にするためのヒントを伝授。



高齢社会を生きる 老いる人/看取るシステム

清水哲郎/編 東信堂 2007年10月 1890円
最終章で「ナラティブホーム」を提唱。医療(科学)の持つ普遍性・論理性・客観性と、科学が見えなくなってしまう物的理解を混在させ、バランスをとらせた上で、高齢者の終末期にかかわっていくという考え方に基づいて運営されているホーム。

介護白書 平成19年版 療養病床の転換とこれからの介護老人保健施設

(社)全国老人保健施設協会/編
TAC出版 2007年10月 2500円

2005年に介護保健法が改正されたあとの高齢化や介護保健施設の状況をまとめている。そして介護老人保健施設の役割や介護療養型医療施設の転換問題等について解説。巻末には、各種調査や統計等の資料も豊富。

生きてみようよ！ 心の居場所で見つけた回復へのカギ

松浦幸子/編著 教育史料出版会 2007年11月 1785円
心を病む人と食事づくりで交流する場としてスタートした「クッ

キングハウス」ここに集うメンバー47人、スタッフ、ボランティア15人が、手記をよせた。「クッキングハウス」のこと、不安や心の病のこと、仕事のことなど、ありのままにつづられていて、読んでいる方が素直になれる。

団塊世代の地域デビュー心得帳 心豊かなセカンドステージへ

細内信孝/編著
ぎょうせい 2007年11月 1800円

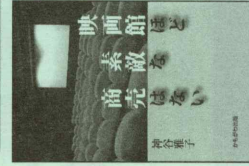
団塊の世代が、なだれをうって地域に帰るといわれる時代。地域でキラリと輝くための心得を伝授。

**〔文学・エッセイ・芸術〕****映画に生きる女性たち 東京国際女性映画祭20回の記録**

高野悦子、大竹洋子、小藤田千栄子、羽田澄子他/著
パド・ウィメンズ・オフィス
2007年10月 1890円



1985年に始まった東京国際女性映画祭も、もう20回を重ねた。第1部は、この映画祭を中心到的に支えた高野悦子、大竹洋子など5人の座談会。第2部は上映作品全記録、第3部は女性監督リスト。貴重な歩みである。

映画館ほど素敵な商売はない

神谷雅子/著
かもがわ出版 2007年12月 1260円

週刊新聞記者を経て京都朝日シネマの支配人に。その後、自ら会社をおこして「京都シネマ1・2・3」を京都烏丸にオープンした著者の書く「映画館開業記」。「好き」の一念で進んだあれこれ。

輝きはじめた女たち 20世紀の化粧と旅

津田紀代/編 ポーラ文化研究所 2007年10月 840円

自分を主張する手段として、女性の化粧が一般的に行われるようになったのは1950年頃からだそう。自動車などでの移動も容易になり、どこでも使える携帯化粧道具が出てきた。現代のおしゃれがどのように育まれてきたかを、本書は追っていて興味深い。

**女優ムン・ソリ韓国映画の魅力語る かもがわブックス167**

立命館大学コリア研究センター/編
かもがわ出版 2007年10月 630円
立命館大学コリア研究センターで開催された第1回韓国映画フェスティバルで行われたムン・ソリさん(韓国の演技派女優)の対談記録。

伝統工芸、女性の匠たち 立松和平この人に会いたい！

立松和平/著 祥伝社 2007年10月 1680円
女性伝統工芸士の会「グループ匠」の12人の女性たちが、作家立松和平と対談。作品とともに、芸談や生き方を披露。写真もついで、綺麗。

元氣！勇氣！本氣！2007年版 関西で活躍する輝く女性たち

俣もつと編集企画部/編 俣もつと 2007年11月 1500円
関西で活躍する女性起業家等36人を紹介。

ハノイを楽しむ 六十を過ぎた女はひとり旅

佐藤玲子/著 連合出版 2007年11月 2310円
「旅は楽しい、特に異国へのひとり旅は、格別に楽しい」と著者。本

少女売買 インドに売られたネパールの少女たち

長谷川まり子/著 光文社 2007年11月 1680円



毎年何千人ものネパールの少女たちが人身売買され、多くがHIVに感染するといふ。著者は、フリーライターで、かつ、インド・ネパールの越境人身売買被害者の支援をしているNGOの代表。まず実態を知らせなければと、活動でかかわった被害女性たちの状況をレポートしている。

女の敵

遙洋子/著 日経BP出版センター 2007年12月 1260円



日経ビジネスオンラインに連載中のコラムがまとめられた。著者がのびのび自由に、日常のいろいろなことを書いてら...。(そんなつもりはなかったのに)たぐさんの「敵」に気づいてしまった。わたしたちが普段たたかっている相手は何なのか？ちょっと息について考えてみるのも、よいかも？

書は、ハノイ、ベナレス、パリの3つの街でそれぞれ1ヶ月暮らした著者の旅行記である。

男はつらいらしい

奥田祥子/著 新潮社 2007年8月 714円
働き盛りの男たちこそ、「つらいらしい」。40代独身の女性記者が、男性の非婚・晩婚化、中高年男性の家庭生活や働き方をインタビュー。

裸でも生きる 25歳女性起業家の号泣戦記

山口絵理子/著 講談社 2007年9月 1470円
イジメ、非行の時代をぬけ、一流大学へ。そしてアジア最貧国の大学院の初の日本人学生へ。帰国後、途上国発のブランド製品を扱う「株式会社マザーハウス」を設立。

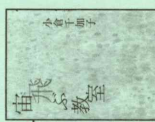
がんから5年 「ほどほど」がだいじ

岸本葉子/著 文藝春秋 2007年9月 1800円
がん患者にとって「5年が経過しました」の主治医の言葉は、本当に重い、という。そうした歳月のあれこれを、おもむくままにつづったエッセイ。

宙飛び教室

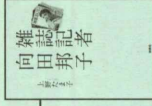
小倉千加子/著
朝日新聞社 2007年8月 1365円

「一冊の本」に連載されていたエッセイが単行本に。



雑誌記者向田邦子

上野たま子/著 扶桑社 2007年10月 1575円
 かつて勤めていた雑誌社の同僚で親友関係にあった著者が、向田邦子の思い出を語る。1999年に出版され今は絶版になっているものに、加筆・修正、改題した。



明治女性文学論

新・フェミニズム批評の会/編 渡辺澄子他/著
 翰林書房 2007年12月 3990円



鉄幹・晶子 夢の憧憬

國文學編纂部/編 學燈社 2007年10月 1890円
 雑誌『國文學』増刊の改裝版。



江戸300年の女性美 化粧と髪型

村田孝子/著 青幻舎 2007年11月 1890円
 江戸時代の女性の美を、化粧・髪型からまとめ、浮世絵・写真・解説で展示。

翔子、地域の学校に生きる！ 重度の重複障害をもつ娘と歩む

菊地絵里子/著 社会評論社 2007年12月 1785円
 脳に障害を持って生まれた翔子ちゃんが地域の学校で生き生きと生活する様子を、お母さんがつづっている。

不器用

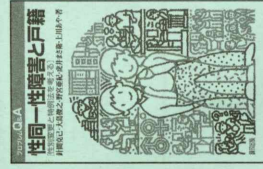
野田聖子/著 朝日新聞社 2007年12月 1365円
 結婚から流産、離党、復党とあしかけ7年間のさまざまな出来事を語ったインタビュアーから構成されたエッセイ。文字通りの激動の日々。



〔セクシュアリティ〕

性同一性障害と戸籍 性別変更と特例法を考える

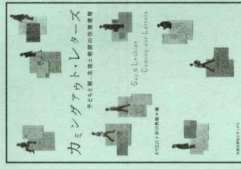
針間克己、大島俊之、野宮亜紀、
 虎井まさ衛、上川あや/著
 緑風出版 2007年12月 1785円



2004年7月から施行された性同一性障害者判別取扱特例法をふまえ、性別変更の実際や特例法の問題点をQ&A方式で呈示。

カミングアウト・レタース 子どもと親、生徒と教師の往復書簡

RYOUII+砂川秀樹/編 太郎次郎社エディタス
 2007年12月 1785円



「異性愛が当たりまえ」の家庭の中で、自分とは同性愛だと気づくゲイやレズビアンの子どもたちは、どうしたらいい？ そうした子どもたちがカミングアウトする過程や気持ちをつづったのが本書。今も「見えない存在」に悩んでいる子どもたちや、その子どもたちになにどう接しようかと悩んでいる人たちへのメッセージ。

古代ギリシアの同性愛 新版

K・J・ドーヴァー/著 中務哲郎、下田立行/訳
 青土社 2007年12月 3780円



プラトン、ソフォクレスを始め、ギリシアには同性愛癖を伝えられる名士が多くていゝる。しかし本書が焦点を多くあてているのは、ギリシア美術や文学に現れた同性愛的行動や感情。巻頭の写真をまですて見てください。

季刊セクシュアリティ No.34 人間と性をめぐる教育と文化の総合誌



人間と性教育研究協議会/編
 エイデル研究所 2008年1月 1500円

特集は「子どもたちをとりまく格差」。雨宮処凛と編集長の対談「若者の『恋愛・結婚・性』と貧困」の他、余子由美子（「格差社会」により、はじかれる子どもたち）、赤石千衣子（「母子家庭の貧困と子どもたちの教育」）など。

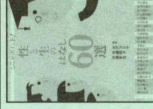
アディクションと家族 Vol.24 No.3

家族機能研究所/編
 ヘルスワーク研究会 2007年11月 1680円
 特集は「性犯罪の新理解」。「新たな共生（矯正）教育の時代と専門家養成」（藤岡淳子）他4編。



性と生のはなし60選 ここがポイント

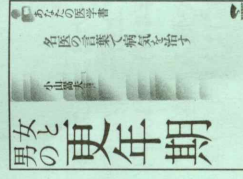
大戸ヨシ子、佐藤明子、村瀬幸浩/編著
 エイデル研究所 2007年8月 1800円
 「季刊SEXUALITY」24号に掲載された「性の話」60編が集められている。子どもと性について真正面から話そう、というコンセプトで集められた60の質問とそれに対するアドバイス。



〔からだ〕

女と男の更年期 名医の言葉で病気を治す

誠文堂新光社 2008年2月 1890円
 小山嵩夫/著



更年期の基礎知識、更年期と性、ホルモン治療、男性の更年期、更年期とうつ、アンチ/ポスト更年期とは、など、女性と男性双方に目くばりして記されている。

女性の医学 オール百科

新星出版 2007年11月 1365円
 星野寛美/監修



家族にがんの人はいませんか 女性のための「家族性がん」の本

市川喜仁/著 日本評論社 2007年11月 1785円
 「家族性がん」とは、「生活習慣・環境・遺伝等の共通する要因によって、同じ臓器のがんにかかりやすくなっている家系のがん」のこと。遺伝性乳がんや卵巣がんなど、女性は特に要注意だという。



〔平和・開発・エコロジー〕

レイシズムの変貌 グローバリ化がまねいた社会の人種化、文化の断片化

ミシェル・ヴィヴィオアルカ/著 森千香子/訳
明石書店 2007年11月 1890円



古典的なレイシズム(民族差別)は姿を消したかに見えるが、「差異」や文化の固有性を強調する言説の中で、巧妙に息づき、広まっている。こうした現象は、グローバリ化による西欧社会の変質と結びついていると著者。克服するには、どうしたらいい?

いのちを産む お産の現場から未来を探る

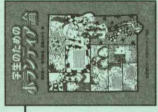
大野明子/文・構成 宮崎雅子/写真
株式会社学芸研究社 2008年2月 2730円



自然分娩と母乳育児をめざす明日香医院でのお産を、一人の写真家が静かに伝えている。写真からは、いのちが産まれる感動が伝わってくる。しかし、写真には含まれたコラームは、産科医療や産科医の窮状を訴える。日本で、すこやかな生命の誕生がしっかりと保障される日は、来るのだろうか。

学生のためのボランティア論

岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子/編
(社)大阪ボランティア協会 2007年12月 1890円
ボランティアをしようとする学生たちに向けて、「なぜボランティアか」を問い、その手がいや方法を提示する。

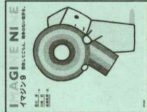


アジェンダ 未来への課題 第19号

アジェンダ・プロジェクト/発行 星雲社/発売 2007年12月 500円
特集は「難民鎮国」の壁を破る!!

イマジン9 想像してごらん、戦争のない世界を。

星川淳、川崎哲/文 成瀬政博/絵
合同出版 2007年12月 1000円
2008年5月に開催される「9条世界会議」に向けて、出版された。



DAYS JAPAN Vol.5 No.1, No.2

広河隆一/責任編集
(株)デイズ・ジャパン 2008年1月・2月 各820円
No.1 特集：忘れ去られた世界/No.2 特集：アイヌの誇り



医療における子どもの人権

栃木県弁護士会

心をケアする絵本2 いまは話したくないの親が離婚しようとするとき

ジニー・フランツ・ランソン/作
キャサリン・クンツ・フィニー/絵
上田勢子/訳 大月書店
2007年11月 1680円



親が離婚する時、子どものケアはどうしたらいい? 巻末に大人向け解説も付いている。

わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて。 児童労働者とよばれる2億1800万人の子どもたち

児童労働を考えるNGO=ACE、岩附由香+白木朋子+水奇僚子/著
合同出版 2007年11月 1365円



インド・セネガル・ガーナ・ニカラグア・ベトナム・カンボジア・フィリピン・パキスタンなどなど、世界各地で行われている児童労働の現状について書かれている。世界で2億1800万人もの児童労働者が、学校にも行けず働いている。中には人身売買により売られていくケースも。

フェアトレードの冒険 草の根グローバルイズムが世界を変える

ニコ・ローゼン、フランツ・ヴァン・デルホフ/著
永田千奈/訳 日経BP社/発行
日経BP出版センター/発売
2007年11月 1890円



「商才がない」と自覚する神父とポランティア青年が組んで始めた「公正貿易」。ユトレヒトのカフェで始まったこの企画が日の目をみて、はばたくまでのお話。

「医療における子どもの人権を考えるシンポジウム」実行委員会/編
明石書店 2007年10月 2100円

病気の子どもにとっても最も重要な事は、適切な治療と健康の回復。しかし、闘病中の子どもも一人の人間として生活し、大人に成長していく過程を生きてはならならこそ、「子どもの人権」として保障されなくてはならぬものがあるはず。本書は、従来見逃されがちだったテーマに焦点をあてる。親の付き添いや面会、子どもに対する病状説明参加など、なるほどと思わせる。



インパクション No.161 軍隊と人権、軍隊と金権

インパクション インパクト出版会/編
インパクト出版会 2008年1月 1260円
特集は「軍隊と人権、軍隊と金権」。女性自衛官人権裁判をめぐる「軍事組織とジェンダー」。「自衛隊とセクシュアル・ハラスメント」の考察。

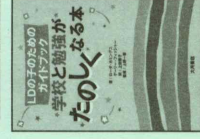
子どもと健康の世界地図 劣悪な環境におかれた子どもたち

世界保健機関/編 平野裕二/訳
丸善 2008年2月 1680円
世界の子どもたちのいまを、地図にすることにより、どのような状態にあるかひと目でわかる。貧困やそれに伴う労働、環境汚染、様々な問題が未解決であることに気づく。巻末には、年表、各国データ、索引付。



学校と勉強がたのしくなる本 LDの子のためのガイドブック

ローダ・カミングス/著
上田勢子/訳 上野一彦/監修
大月書店 2007年11月 2100円



LD(学習障害)の子の質問や悩みに答えている。もっと楽しく勉強するには? 楽しい学校生活を送るためには? など

〔自伝・評伝〕

自伝 じょうちゃん



朝日新聞社 2007年11月 1575円
週刊朝日で連載されていた、童話作家松谷みよ子の初めての自伝が1冊になった。1929年神田に生まれてから、戦時下のOL生活、疎開を経て、劇団生活、結婚生活、別れまでを描いている。

秋瑾 火焰の女



山崎厚子/著
河出書房新社 2007年12月 1785円
名家に生まれ、湖南省の富豪に嫁ぎながら、女性解放を目的に家庭も子どもも捨て、革命運動に身を投じた秋瑾の生涯をつづっている。1907年に絞首刑に処せられるまでの33年の生涯の物語である。

マリリー・キュリー 新しい自然の力の発見

オーウェン・ギンガリッチ/編集代表
ナオミ・パサコフ/著 西田美緒子/訳
大月書店 2007年9月 1890円
「オックスフォード科学の肖像」の第5巻。



ヴィクトリア女王 大英帝国の“戦う女王”

君塚直隆/著 中央公論社 2007年10月 903円
19世紀、最繁栄時代のイギリスに64年間君臨した、ものすごい女王の人生と、苦悩、愛。

私は逃げない ある女性弁護士のイスラム革命

シリル・エバディ/著 竹林卓/訳
ランダムハウス講談社 2007年9月 1995円
知識人の国外脱出の中、イランにふみとどまり、戦乱の祖国で子どもや女性の人権問題に取り組み弁護士、シリル・エバディさんの回顧録。2003年ノーベル平和賞受賞者。



NOと言わない生き方

足立禮子/著 三五館 2007年10月 1575円
80代になっても現役の女性能楽師である著者の自伝。決して「NO」と言わない、「従順な」生き方が、現在の「強靱なる力」の源泉だという。

リーヴィット 宇宙を測る方法

ジョージ・ジョンソン/著 渡辺伸/監修
横原凜/訳 WAVE出版 2007年11月 2520円
「宇宙の広さを探る方法」を発見したヘンリエッタ・リーヴィット。彼女はハーバード大学天文台のデータ記録する職員だった。20世紀の初めに生き、断片的な記録しか残さなかった(残されなかった)彼女の業績を掘り起こしたのが本書。



科学する心 日本の女性科学者たち

岩男壽美子・原ひろ子/著
日刊工業新聞社 2007年11月 1470円
本書は、女性研究者14人と、積極的に女性研究者を育てた男性研究者5人を紹介。青少年少女に日本の女性科学者のあゆみを知ってほしいといまとめられたもの。巻末には年表付。



ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の新着情報です
シリーズもののミニコミ最新情報は別刷りしています

<単発もの>

■みっちゃんとなーの事件簿

八方ねこ/作 フジコ/絵 八方ねこ/編集・発行 2007年7月 500円
車椅子生活者の女性と猫が主人公のお話。人との出会い・繋がり・自立のプロセスを描いている。



■第1回日本男性学会議 報告集

日本家族再生センター/編集・発行 2006年3月 630円
2005年10月に開催された会議の報告集。パネルトーク「DV・虐待防止法の問題点」ほか。



■第2回日本男性学会議 報告集～当事者は語る～

日本家族再生センター/編集・発行 2007年5月 630円
2006年9月に開催された「DV・虐待、加害者アプローチ研究全国大会」の報告集。



■知っておこうホームヘルパーの働く権利

働く女性の人権センターいこ☆る
ケアワーク・ワーキング・グループ/編集・発行 2007年11月 315円
ホームヘルパーの労働条件についてわかりやすく解説した冊子。



■同一価値労働同一賃金の立法化をめざして

ワーキング・ウィメンズネットワーク/編集・発行 2007年12月 1000円
2007年9月ILOへの旅の報告書。参加者はWWNメンバー、労働裁判原告団、弁護士、研究者など。

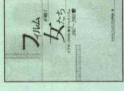


■フェミニズムのゆくえ2007

新潟ウィメンズ企画/編集・発行 2007年12月 315円
フェミニズムのめざすもの～ジェンダーと欲望問題ほか 金井淑子さん講演録。



■フィルムが紡ぐ女たち ビデオ/DVDに観るフェミニズム2007～2008
シネマとフェミニズム研究会/編集・発行 2007年8月 315円
女性のための映画ビデオ/DVDガイドブック。シリーズ第5弾。



■アドボケイター養成プログラム 記録と証言

FTCシエルトア/発行 2007年3月 1050円
DV被害者への同行支援のありかたをめぐる実践報告。巻末資料も充実。



■第25回 高齢社会をよくする女性の会 全国大会・鳥取報告書
NPO法人高齢社会をよくする女性の会/発行 2007年5月 525円
2006年9月に開催された全国大会の報告書。講演録・分科会報告など。



■公開講座・夏合宿2006

地域で暮らすDV被害者と子どもを支援する会/発行
2007年7月 1050円
「大人も子どもも共に安全で健康に生きるためのプログラム」夏合宿の報告書。



編集長の著者インタビュー

疑問スツキリ！セクハラ相談の基本と実際

周藤由美子著 新水社 1050円 2007年10月

最近、企業や学校など、いろいろなところで開設されつつあるセクハラ相談窓口。相談員もたくさん誕生している。しかし、そこにいるセクハラ相談員が迷ったり、孤立して追い詰められてしまったら、その効果は半減以下。そこで、そうした相談員の人たちの学習書、研修テキストとして、本書が出版された。

徹底的に、現場に即した本である。例えば「セクシュアル・ハラスメントって？」の項目では、簡単な定義から入り、セク

著者インタビュー 第28回

『疑問スツキリ！セクハラ相談の基本と実際』の著者

周藤 由美子さんに聞く

フェミニストカウンセラー



——：セクシュアルハラスメントそのものについてというより、セクハラ相談員や窓口担当になった人に向けた本なのですね。

周藤：そうですね。99年に男女雇用機会均等法が改正され、セクシュアルハラスメントを防止することが、事業主の配慮義務になりました。そして07年の改正では、被害にあった労働者の相談に応じ、適切に対応するために必要な措置を講じる義務があるというようにセクハラ対策が強化されたのです。

99年の改正以降、企業や大学などでセクハラ相談の窓口がたくさんでき、相談員の人たちへの研修もたくさん依頼されました。そして研修の際、相談員の方々の質問や悩みに共通したものがあることに気がきました。よくある質問や悩みを整理して、具体的な対応方法についてまとめたいのが、この本です。07年の改正で、相談員向けのわかりやすいガイドブックの必要性が高くなってきたからです。

——：なるほど。相談窓口には相談員が配置されるわけですが、きちんとした経験や研修がない場合には、相談員の方自身が大変になるのですね。

周藤：相談を受ける側が自信を持って対応できないと、相談に来る人がますます困ってしまいます。ですから、まず、相

ハラとは何かをチェックするポイント、こういうケースはどう考えたいかななどのケース解説、「相手が嫌だったからセクハラだというけれど、嫌かどうかはこちらでは判断できない」といったよくある疑問への答え方、法律用語などのキーワード解説…というわけで、まさに、現場で「これが必要なんだ」という観点からの記述で構成されている。

セクハラ相談員はもちろん、被害者の人にも、家族や周囲の人にも、必ず役立つ、そんな一冊である。(M)

相談員の研修などを充実させ、相談の質を確保する必要があるのです。

——：この本には、理論、理屈よりも、こういう場合はどうかとかいような具体的な、日常会話から導きだせるような事例が使われています。

周藤：研修先で質問されたことに、どう答えたらいいか、ずっと考えてきたことをもとに書いたからだと思います。事例をできるだけ挙げ、チェックポイントやキーワードもたくさんつけました。相談員だけでなく、相談する側の方々からも、わかりやすいという反響をいただいています。

——：ウィメンズカウンセリング京都の立ち上げのときからカウンセラーとして働いているとお聞きしましたが、この世界に入られたきっかけのようなものはあったのですか

周藤：大学に入ったばかりの頃、「声なき叫び」というカナダ映画の上映運動がありました。その映画を観て、性暴力は、女性にとって殺人と同じなのだと、はっきり認識できました。就職してからも、性暴力被害者の電話相談や裁判支援などにかかわりました。その活動の中で、必要性を痛感して性暴力被害者へのカウンセリングができるフェミニストカウンセラーになったのです。

——：まだまだ、課題は多いのですね。

周藤：改正された均等法でも、セクハラ定義に関係した職場の範囲が決いことや加害者と被害者を引き離すための緊急の措置がないなど、現状に合っていない点がたくさんあります。最終的には、もっと幅広い性暴力禁止法のような法律が必要ではないかということで、私もかがわっているのですが、今、それを作るためのネットワークづくりが進められています。(聞き手：森屋裕子)



世界の人権2007 アムネスティ・レポート

「アムネスティ・レポート世界の人権」編集部/編
(社)アムネスティ・インターナショナル日本/発行
現代人文社/発売 2007年10月 3150円
アムネスティ・インターナショナル英語版年次報告書の翻訳版。国別の人権保障状況が報告されている。



季刊ピープルズ・プラン40

ピープルズ・プラン研究所/編
ピープルズ・プラン研究所
2007年11月 1365円

特集は「どう変える？日本の政治—安倍政権崩壊の意味を問う」。「安倍政権自壊の歴史的意味」(武藤一羊)。「参院逆転で新自由主義はとまるか？」(竹信三恵子)。「マイノリティの旗を掲げて」(尾辻かな子)など。



市民は政治を改革できるか 衆議院選に向けて考える
あごら315号新宿発

あごら新宿/編 BOC出版
2007年12月 1260円

昨年の参議院選挙をふりかえり、次の政治を考える

オトナのメディア・リテラシー

リベルタ出版 2007年10月 1575円

自分の頭で情報を判断しよう、という本。テレビ局を経てカナダでメディアリテラシーを研究した著者が、メディアと付き合うノウハウを伝授。メディアと性暴力表現、映画の作る女性、サイバーフェミニズムなど、ジェンダーの視点がしっかり入っている好著。



HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

書評

『女の遺言・わたしの人生を書く』を読んで

麻島澄江・鈴木ふみ/著
御茶ノ水書房 2730円

中嶋里美(男女平等運動家)

産まれた時は母が産衣を用意してくれたり、お産婆さんが産湯をつかわせてくれたり、自分の仕事は泣くこと位だったはずだ。でも死の準備だけはしっかりやらなくてはと実感したのは両親の死後の後片付けをした時だった。

5年前癌になった時遺言書を初めて書いたが、今年の正月、本書を読んで書き改めた。事実婚なので土地、建物、貯金を共同生活者に遺贈するという簡単なものだった。しかし読むうちに病気になる時のこと、献体のこと、葬式やお墓のこと、残っている本や服やアルバム、日記、手紙類の片付けについてもどうするのか、そして誰に託すのかも考えてみようと感じた。

第八章の「遺言は生きることの宣言」では、8人の女たちが12月31日から正月3日まで「女性」、「遺言」、「社会」について思う存分語っている。この章は「強制的男女愛制度」、「遠い母」、「女と財産」等23のテーマに分かれている。久しぶりに私の根拠がゆさぶられた。

大阪特集

～なにわ女性が未来を創る～

510円(税込み)

(株)潮出版社編集

月間「パンプキン」

2008年3月号の特集は、

☆「大阪の女性」なにわ

女性が語る大阪

石浜紅子さん/岡智恵

子さん/佐藤多賀子さ

ん/中尾敦子さん/篠

崎由紀子さんなど

☆大阪女のクチャコミ

ルメ

☆大阪の女性が世界を変える

南野佳代子さん/東瀬幸枝さん/欠野アズ紗さん

/小山琴子さん

☆巻頭特集 自分でなおすアレルギー体質

(ウィメンズブックスストア ゆうでも扱っています。)

読んで
ください
!



DVD紹介

『知っておこうよ!』

女性の年金

監修: 樽谷かず子

制作: もっと輝く☆輪

著作: ビデオ工房 AKAME

年金ってもらえるの?

自分はどれくらいもらえるの?

年金だけで生活が成り立つのかしら? 離婚による年金分割制度って、どんな制度なの? 専業主婦の年金は? そんな疑問を持つ皆さんに、樽谷かず子さん(社会保険労務士)の監修のもと、イラストとインタビュで年金制度を分かりやすく読み解きます。

DVDの構成は年金制度の基礎知識・年金制度を食事に例えてイラストで説明・20～80歳代までの女性へのインタビュ・離婚による年金分割のドラマ仕立て解説・樽谷かず子さんの解説などです。

年金は個人のものであるとともに、社会で守っているものです。このDVDで伝えたいことは収入の多少や立場にかかわらず、受け取る年金があることが大切だということです。そして平等な年金制度をめざしていくためのきっかけになればという思いで製作しました。

楽しく分かりやすい表現にしてありますので高校生以上の人たちの教材としても最適です。

個人価格 3000円(税込)

上映権付価格 10000円(税込)

販売元 ビデオ工房AKAME

江上騎子(ビデオ工房AKAME)

『パワー・ハラスメント
そのときあなたは…』

「無視をする」「大声で怒鳴る」「人前で叱責する」など職場でのパワー・ハラスメントが、今大きな社会問題となっています。被害者が病気になる場合も、退職に追い込まれる場合もあります。パワー・ハラスメントによる精神疾患が労働災害と認定されるようになり、個人のトラブルではなく、組織の問題として認識されるようになりました。

本DVDは、パワー・ハラスメントを受けた人たちへのインタビュと事例に基づくドラマ、さらに丁寧な解説で構成されています。パワー・ハラスメントの想像を超えた影響を観る人に突きつけ、職場にとつての重要な問題を的確に描き出しています。パワー・ハラスメントの解説と対応に加えて、被害者さらに苦しめる「二次被害」やパワー・ハラスメントのひとつの形態である「セクシュアル・ハラスメント」の解説も盛り込んでいます。

職場での管理職、社員の研修用としてだけでなく、グループでの学習会などにもぜひご活用ください。

価格 25,000円(税・送料別)(上映権付) 2008年 21分

制作・著作 アトリエエム株式会社

企画 三木啓子(アトリエエム株式会社代表)

製作 ビデオ工房AKAME

(ウィメンズブックスストア ゆうでも扱っています。)



ウィメンズブックス

WEBからの風

「ウィメンズ ブックス」のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスストア 11・12・1月ベストセラーTOP5

1 気づいて乗りこえる

長谷川七重+グループおん/著
人と情報を結ぶWEブロードユース 1050円

2 セクハラ相談の基本と実際

周藤由美子/著 新水社 1050円

3 おひとりさまの老後

上野千鶴子/著 法研 1470円

4 デートDVってなに? Q&A

日本DV防止・情報センター/編著 解放出版社 1365円

5 コミュニティの活力源になるライブラリーをめざして

丸本郁子/監修
人と情報を結ぶWEブロードユース 1050円

リストブックをご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込みください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

〈送料〉

書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料

書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は上限300円

個人会員

海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

(新刊案内 ゆう刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃんブログ更新中)

メルマガ

発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録はinfo@womens-books.jp

までどうぞ

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。

次号の締め切りは2008年5月5日です(発行予定日2008年5月25日)

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料: 会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを満載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費(年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)

個人会員	3000円
海外会員・団体会員	3800円

女性センター、女性政策課、 研究室、図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、データ管理、コーティングなど

○ 自費出版承ります。ご相談ください。○

■ 'ゆう' だより

■ 28号別刷り特集は、ゆう取り扱いのビデオ・DVDです。発売年月が比較的新しく、購入問い合わせの多いものをまとめてみました。また本誌ホットファイルでは、出来たてホヤホヤ・気になるテーマのDVDを2作品紹介しています。お問い合わせ・ご注文お待ちしております。

(勝原博美)

■ 大阪府に新しい知事が誕生し、「ドーンセンター売却」のニュースがかけめぐって以来、みなさまには、いろいろ、特別なご心配をいただいております。ウィメンズブックスストアゆうは、元気です！今まで以上に、ちゃ〜んと、営業しています。

■ とはいえ、ドーンセンターの空気に落ち着かない雰囲気があることは確か。それは、仕方のことです。大阪府内全体が落ち着きません。こうした中でも、施策を後退させてはいけな、日々の事業をきちんとこなしている方々に敬意を表しつつ、ウィメンズブックスストアもがんばっています。

■ 新しい本を出版します。前ドーンセンター館長、竹中恵美子さんの「ジェンダー平等をめざして〜次世代に語り継ぎたいこと」(ウィメンズブックスストア ゆう発行、松香堂書店発売)です。なぜドーンセンターが必要なのか、何を引き継がないといけないのか、熱い思いを語っています。この時期、特に読んでいただきたい本です。詳細はちらし、WEBショップをご覧ください。

■ 前号発行時にとらせていただいたアンケートですが、予想をはるかにこえて送っていただき、感激しています。みなさまからいただいたご意見のごとく、視点が確かな「新刊書評誌」としての役割をしっかりと自覚しつつ、リアルな考えを考えます。事態が動いていますので、リアルな時期は未定になりましたが、これからも「ウィメンズブックス」をよろしく願っています。(編集長: 森屋裕子)

店舗 **ウィメンズブックスストア ゆう**

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49 ドーンセンター1F

電話 **06-6910-8627** FAX **06-6910-6115**E-mail info@womens-books.jp

郵便振替口座 00900-5-309395

火〜金: 午前10時から午後7時

土・日: 午前11時から午後6時30分

定休日: 月曜 ドーンセンター休館日